

平成23年度

千葉県健康づくり推進協議会  
第1回8020運動推進部会  
議 事 録

保健福祉局健康部健康支援課

## 平成 23 年度千葉市健康づくり推進協議会第 1 回 8020 運動推進部会議事録

### 1 会議の名称

平成 23 年度千葉市健康づくり推進協議会第 1 回 8020 運動推進部会

### 2 開催日時

平成 23 年 12 月 27 日（火） 午後 7 時 30 分から午後 9 時 00 分

### 3 開催場所

千葉市美浜区幸町 1-3-9  
千葉市総合保健医療センター 4 階 会議室

### 4 出席者

#### (1) 委員

藤本俊男委員（部会長）、関根務委員（副部会長）、木屋和彦委員、  
杉崎幸子委員、岡部明子委員、高橋秀夫委員、小川隆委員、杉森信幸委員、  
岩瀬恵子委員、木川茂雄委員、藏屋勝敏委員、鶴澤禮子委員  
（委員 13 名中 12 名出席）

※欠席委員

高野伸夫委員

#### (2) 事務局

山口淳一健康部長、窪田和子健康部技監兼健康支援課長、福田峰子健康支援課長  
主幹、千葉美江子保育運営課長補佐、西河透中央保健福祉センター健康課長、  
三橋和生保健体育課長補佐、増田幸一健康支援課長補佐

### 5 議題

- (1) 部会長及び副部会長の選出について
- (2) 千葉市の歯科保健対策の現状について
- (3) 歯科保健に関するアンケート調査結果について
- (4) その他

### 6 議事の概要

冒頭、事務局から、千葉市健康づくり推進協議会設置条例 7 条第 7 項の規定（資料  
1）により、委員の半数以上の出席があるため、会議が成立している旨の説明があった。

- (1) 部会長及び副部会長の選出について  
委員の互選により、藤本委員を部会長に、関根委員を副部会長に選任した。
- (2) 千葉市の歯科保健対策の現状について  
事務局から千葉市の歯科保健対策の現状について説明を行った。
- (3) 歯科保健に関するアンケート調査結果について  
事務局から歯科保健に関するアンケート調査結果について説明を行った。
- (4) その他  
委員から事業の報告と提案があった。

### 7 会議経過

#### (1) 部会長及び副部会長の選出について

千葉市地域健康づくり推進協議会設置条例第 4 条第 2 項の規定に基づき、委員の互選により、会長及び副会長を選任した。

選任にあたっては、委員から、部会長に千葉市歯科医師会会長である藤本委員を副部会長に千葉市医師会議長である関根委員をそれぞれ推薦する旨の提案があり、当該提案のと

おり承認された。

## (2) 千葉市の歯科保健対策の現状について

事務局から、資料3-1「千葉市の歯科保健対策」及び資料3-2「千葉市の歯科保健対策の現状」により、ライフステージ別に歯科的特徴・問題点、歯と口腔の健康づくりの取り組み内容、新世紀ちば健康プランの目標と中間評価、歯科保健対策事業実績について説明を行った。

また、事務局から、資料3-3「千葉市の歯科保健対策の現状（補足資料）」により、幼児期・学齢期の歯科保健の状況（う蝕罹患率、歯肉の要観察・要精検の割合）、政令市におけるう蝕罹患率の比較（1歳6か月児・3歳児）、平成21年度から開始された妊産婦歯科健診の実施状況（受診率・受診結果）、歯周疾患検診の実施状況（受診率・受診者結果）について説明を行った。

### 【質疑応答等発言要旨】

<委員>

千葉市は、各ライフステージ別に歯科保健事業の取り組みが行われているが結果が伴わない。

1歳6か月児、3歳児健診とも受診率は高いが、中学・高校生になると自己管理が問題になってくるだろう。学齢期の取り組みを教えてください。

<事務局>

教育委員会では、平成24年度を目標に12歳児のう蝕本数を1.0本にすることとしている。歯科医師会の先生方の協力を得て、各学校で「歯と口の健康づくり啓発事業」を実施しており、目標に近づいてはいるが、今後も継続して取り組んでいきたい。

<委員>

幼稚園での年1回の定期歯科健診では、地域によっては保護者の意識や反応が良く、歯科受診後の結果報告も早い。本市の3歳児健診の結果は、地域によって差があるか。

<事務局>

1歳6か月児健診のう蝕罹患率の高い地区は、中央区、緑区、低い地区は稲毛区である。3歳児健診のう蝕罹患率の高い地区は、若葉区、低い地区は美浜区である。

<委員>

60歳・70歳で自分の歯を有する人の割合は高いが、一方歯周疾患検診の受診率からみると5.3%と低い。これは、歯周疾患の関心が高い方の結果であり、未受診者の結果はないのか。

<事務局>

歯周疾患検診受診者からのデータであり、歯への関心が高い方の結果といえる。未受診者の状況把握はできていない。

<委員>

歯周疾患検診の受診率が、10%、8%さらには5%と低下した。各々の立場で歯周疾患検診受診率向上のための取り組みが必要だと感じる。

<委員>

歯周疾患検診の受診者は女性が多く、かかりつけ歯科医を持って定期検診をする意識が高いと思われる。歯に痛みを伴わないとかかりつけ歯科医があっても受診しない方が多い男性の歯周疾患検診の受診が少ないのではないか。また、10年に1回の検診のため、歯周疾患検診を受診することの効果が市民から見て分かりにくい。

## (3) 歯科保健に関するアンケート調査結果について

事務局から資料4「歯科保健に関するアンケート調査結果」により妊産婦歯科健診及び歯周疾患検診における住民の意識調査結果について説明を行った。妊産婦歯科健診については、認知度は、92%だが受診行動につながっていないこと、健診の受診がかかりつけ歯科医を持つきっかけにならなかったこと、また、歯周疾患検診については、認知度38%と周知不足であること、受診者はかかりつけ歯科医を持っている人が多いこ

と、検診受診が、かかりつけ歯科医を持つきっかけになったこと等について説明を行った。

#### 【質疑応答等発言要旨】

<委員>

調査結果で歯周疾患検診の受診は、かかりつけ歯科医を持つきっかけになったが、妊産婦歯科健診受診は、きっかけにならなかったのはどういうことか。

<事務局>

アンケートで聞いていないため把握できていないが、年齢層と意識の違いではないか。歯周疾患検診は40歳以上、妊産婦歯科健診はおおよそ30歳代なので、かかりつけ歯科医へのイメージにつながりにくいのではないか。

<委員>

妊産婦歯科健診は、妊産婦のむし歯や歯周病などの口の中の問題だけでは、メリットを感じないのではないか。小児科医から、初産婦は、出産後、赤ちゃんの歯の手入れなどの質問をすることがあると伺った。妊婦歯科健診時の指導内容を見直し、話題を広げることで産婦歯科健診の受診、さらにかかりつけ歯科医に結びつくのではないか。

<委員>

歯周疾患検診の受診率が、年々低下していることが問題であり、平成22年度5.3%の結果だった。検診受診者が、かかりつけ歯科医を持つことにつながったことは良かったが、検診受診者を増やすための工夫や考えを伺いたい。

<事務局>

平成21年度までは、対象者が受診するがん検診・歯周疾患検診等の検診票を送付していたが、22年度から案内方法をシール形式に変えた。歯周疾患検診のシールの位置が分かりづらかったのではないかと考え、平成23年度は、歯周疾患検診を目立つ黄色に変え、10年に1度の節目検診となる旨の案内を入れた。その結果、昨年12月の受診状況と比較すると、今年度は3割増の結果だった。がん検診・歯周疾患検診等のシールと合わせて、各種検診の内容をまとめた冊子も送付し、検診への知識の普及啓発を図っている。

<委員>

歯周疾患検診未受診の理由の中で「かかりつけ歯科医が協力医療機関でなかった」とあるが、この協力医療機関はどのように決めているのか。

<委員>

本会の医療機関にお願いし、協力していただける歯科医に勉強会を設けて認定している。

<委員>

かかりつけ歯科医が協力医でなかったため、歯周疾患検診の協力医療機関に受診したところ、むし歯などの治療の必要な歯が見つかり、引き続き治療のため受診したが抜歯されてしまった。以前の歯科医院では、歯を残す方法を考えてくれたのだが、歯科医によって治療方法の考えも違うことがわかった。今回の経験から、かかりつけ歯科医が協力医療機関であるとよいと思った。現在、医療機関数はどのくらいあるのか。

<委員>

歯科医師会の医療機関の7~8割が歯周疾患検診の協力医である。妊産婦歯科健診の協力医数とは異なる。患者さんの立場から、かかりつけ歯科医へ、協力医療機関になるよう勧めたい。

<委員>

自分の歯周疾患検診の案内を見落とししてしまい、受診できなかった。そこで友人に歯周疾患検診について聞くと、「10年に1回の検診」を「10年間有効なのか」と話す者もいた。自分が受診できなかった経験から、40・50・60・70歳の受診を勧めた。

<委員>

歯科は、受診したくないイメージが強い。8020運動推進の中で80歳の方が20本以上の歯を有する割合が25%を達成している。自分の口に対して関心が高くなってきた成果である。しかし、委員の皆さまからの意見を伺うと、40歳50歳は仕事などが忙しい年代

である。歯科受診したくても、受診できない状況にあるのではないか。本市の学齢期の取り組みである「歯と口の健康づくり啓発事業」を今年度2中学校区に実施した。この事業を通して、児童と生徒が自分の歯の健康づくりに関心を持ってもらい大人になった時に、各種歯科健診の受診率が高くなることにつながるのではないかと期待している。

<委員>

今年度「歯と口の健康づくり啓発事業」を実施した。この事業を通して生徒達は、「歯科医は、治療するだけでなく、歯の健康のための教育や予防をしてくれる人」とイメージが変わったようだ。自分の知らなかったことに興味を示していた。とてもよい経験となったようだ。

<委員>

毎年、市教育委員会の歯科衛生士が児童に口腔衛生指導を実施している。口と歯の変化が現れる頃に、むし歯や歯周病をテーマに歯ぐきや歯に関心が持て、予防に取り組む意識が芽生えた。

<委員>

幼稚園からフッ素洗口のやり方、定期歯科健診の受け方などの歯科情報を発信している。そのため、子どもや親の予防への意識が高まった。今後、行政、幼稚園、小・中学校、歯科医のさらなる連携が必要である。

<委員>

市民が日常生活で予防への取り組みを行うことが大事である。健診の受診率を上げることも大事だが、個人の健康づくりを支援していくためにも行政、医療・歯科医師会・県衛生士会などの関係機関が協力をしてわかりやすい情報を伝えるべきである。

<委員>

がん検診、特定健診など実施している。検診の種類によっては、毎年の受診が望ましいのだが5年毎もある。歯周疾患検診は、10年毎。受診時期を短くできるとよい。歯周病は、テレビなどの情報での認知度が高いが、検診ができる医療機関のPR方法をわかりやすくステッカーを貼るなど工夫すべきである。

<委員>

テレビ・セミナーで口腔ケアの重要性を知っている。地域のボランティア活動の中で口腔ケアに取り組んでいる。中央・稲毛・美浜地区でシニア世代を対象に健康づくりをテーマに実施している。行政の歯科衛生士に依頼し、口腔ケア、健口体操などの勉強会を実施している。DVD「スマイルアップちば体操」を見ながらの健口体操は、大変好評である。

<委員>

おいしく食べるためにも、歯とお口の健康が大事であることを、各種事業で情報を発信している。妊娠時期の関わりも大事であるが、その前の高校卒業後、どのように健康面においてフォローしていくのか、健康診断の中に成人歯科健診の受診体制があると意識が高まるのではないか。歯周病は、生活習慣病であることをもっと周知していくべきである。

<委員>

今回出された子どものむし歯が多い、妊産婦の口腔内状態に問題が多いが健診の受診率が低い、歯周疾患検診の受診率が低い、この3つの課題について、各々の立場で検討し、実行していくことでよろしいか。

#### (4) その他

委員より口腔がん検診、またフッ化物応用の検討について意見が出された。

##### 【質疑応答等発言要旨】

<委員>

本市・歯科医師会で「口腔がん検診」を定員600人に実施した。口腔がん検診を協力医療機関で受診後、精密検査の必要者は4名おり、2次医療機関に紹介した。

歯科医師会では、「フッ化物洗口」の取り組みを推奨している。すでに本市でフッ化物洗口に取り組んでいる保育園がある。むし歯予防の有効性の結果が出ていることから、本

市での取り組みを検討していただきたい。

<委員>

今年度、10月に「むし歯予防全国大会」を開催し、フッ化物応用への取り組みが話題になった。今後、フッ化物応用についても検討が必要だろう。学校現場から何か意見はありますか。

<委員>

「フッ化物」については、知識がありません。

<委員>

次回、部会で「フッ化物」について検討していただきたい。8020運動推進部会が市民の歯と口の健康づくりに役立てる会として、発展していきたい。各々の立場でご協力をお願いしたい。

<事務局>

回りの部会では「フッ化物」のことを話題にするように検討したい。

以上のとおり議事を進め、午後9時頃に閉会した。

以上

平成23年12月27日(火)開催の平成23年度千葉市健康づくり推進協議会 第1回8020運動推進部会の議事録として承認し、署名する。

千葉市健康づくり推進協議会 8020運動推進部会長 .....

問い合わせ先 保健福祉局健康部健康支援課  
電話 043-238-9926  
FAX 043-238-9946  
電子メール shien.HWH@city.chiba.lg.jp



